

令和6年度

牟岐町立牟岐中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的に学習する生徒を育てるわかる授業の確立。
- ②体験活動や言語活動の充実。
- ③保小中の系統的な学習方法の確立。

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員による相互授業参観や情報交換を通して、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度は良好で、朝自習も集中して取り組んでいる。「ながら」学習しないように意識している生徒が増えた。 ●聞く力が弱い。授業内容の理解度が低下しつつある。家庭での学習習慣が身につけていない生徒が多い。	①意欲的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ②学習方法を身につけ、自主的に学習に取り組むことができる。	①相互授業参観を学期に1回実施し、授業の工夫・改善を目指した職員研修を行う。 ②授業では「ふり返り」の時間を確保し、課題は計画的に取り組んで提出させる。 ③家庭学習調査を実施し、計画的に勉強に取り組むよう意識付けをする。	・生徒の主体的な学習活動が促進されるような授業計画を立てる。 ・基礎的・基本的な内容の定着を図るため、小テストやタブレットでのクイズなどを授業中に行う。	学習アンケートより、「学習内容をノートに整理している」は93%、「宿題を毎回必ずしている」78%、「家庭学習をしている」65%と前年度より向上している。しかし「授業内容を理解している」は81%だった。向上はしたが、家庭における学習習慣の定着は依然不十分である。	授業態度は概ね良好だが、学力定着に向けた取り組みや、教員の授業力向上に向けた取り組みを継続していく。家庭での学習習慣の定着など、家庭と協力して学習の質的向上をめざす。宿題の内容を工夫する必要もある。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○班活動で、自分で調べたことや考えたことを発表させることで、意欲的に言語活動等に取り組む姿勢が見られた。 ●読書活動や、授業中に考えて発表すること、考えを他の人に説明することに苦手意識がある生徒が多い。	①すべての授業を通して、自分の思いや考えを正しく表現できる。 ②異年齢集団や地域の人との交流を通して、積極的に発言し、意見をまとめることができる。	①すべての授業に言語活動を取り入れる。 ②保・小・中で「聞くこと」に重点を置いた取組を行う。 ③異年齢集団や地域の方と連携し、生徒主体の体験的な活動を通して、学んだことを発表し、表現する力を伸ばす。	・新聞を使った感想・意見文を書く機会を設ける。また、1分間スピーチや、朝会など全校生徒の前で表現する場面を確保する。 ・異年齢集団や地域の方と交流する機会を活用する。	学習アンケートより、「教員の発問に対してよく考えて表現しようとしている」55%、「授業などで自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができる」68%で昨年より向上したが表現に苦手意識を持つ生徒が多い。	教員アンケートより、「一時間に一回以上、生徒の考えを表現させる」54%であり、表現の機会を確実に確保していく必要がある。また読書が好きと答えた生徒が31%で、読書活動を推進しなければならない。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に前向きに取り組む姿勢が見られ、生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。 ●分からないときに諦めてしまう生徒が多く、探究心を持って取り組もうとする生徒と二極化傾向が見られる。	①学ぶ楽しさや喜びを感じて、自信をもって粘り強く続けることができる。 ②自分の課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	①主体的な活動や、意欲を高め、成功体験を味わうことができる活動を取り入れる。 ②情報交換を密にし、生徒理解を深めて、個に応じた指導を行う。 ③仲間と助け合い、協力し合えるような集団づくりを目指す。	・個に応じたスモールステップの指導を行う。 ・よりよい集団づくりに向けて、教職員間での情報交換を密にする。	学習アンケートより「分からないとき、あきらめないで考えている」63%で昨年を下回った。また「疑問に思うことを自分で調べている」70%、「目標を持って学校生活を送っている」65%で、前年度より向上したが低い状況である。	粘り強く学習する姿勢の育成が必須である。また、学習に関する自己肯定的な意見が低いため、自ら学ぼうとする場面づくり、学ぶ楽しさや喜びが実感できる工夫した授業づくりに取り組む。個別対応にも取り組む。

令和6年度 学力向上ロードマップ

